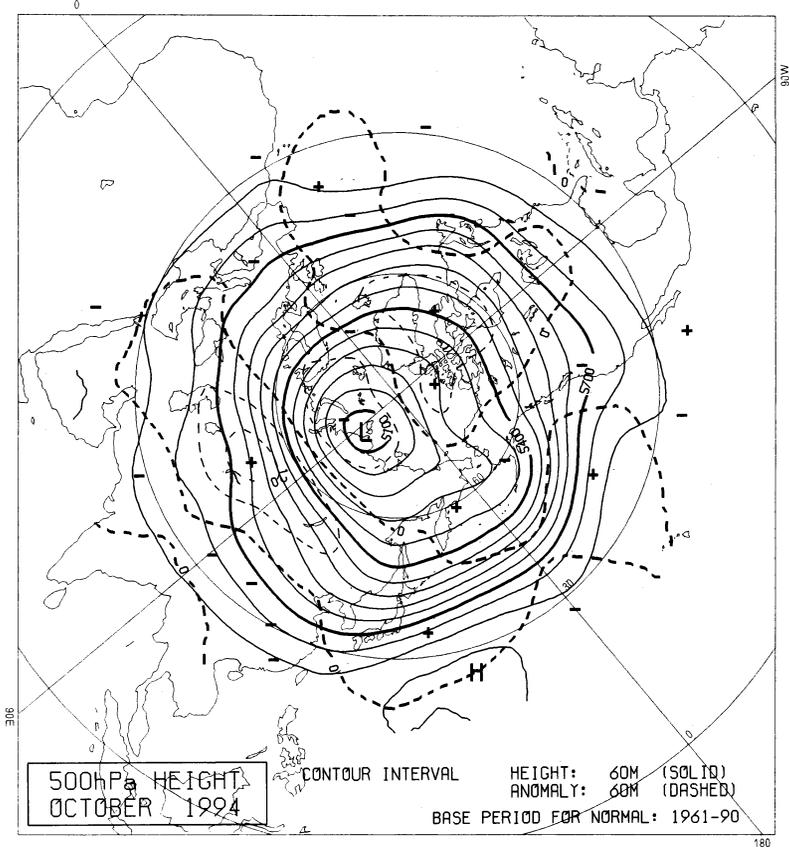


## 1994年10月の大気大循環と世界の天候 月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差. 単位m)

表 1 1994年10月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	11.3	-0.1	-0.1	42	72	—	カサブランカ	—	—	—	—	—	—
ベルリン	—	—	—	—	—	—	ニオロドサヘル	28.4	-1.5	-1.5	62	236	5
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	19.1	-0.9	-0.8	55	75	2
イスタンブール	18.1	2.8	1.9	106	148	4	バンクーバー	—	—	—	—	—	—
モスクワ	5.0	0.0	0.0	71	122	—	ニューオーリンズ	21.6	1.0	0.7	58	75	3
オデッサ	12.5	1.3	0.8	47	162	4	セントルイス	16.4	2.1	1.1	72	106	4
ニューデリー	25.4	-0.8	-1.1	0	0	2	サンフランシスコ	15.6	-0.5	-0.6	9	29	3
カルカッタ	—	—	—	—	—	—	ニューヨーク	14.7	0.6	0.4	35	46	1
ボンベイ	29.3	0.6	0.9	11	20	1	マナウス	—	—	—	—	—	—
ホンコン	24.6	-0.6	-1.2	6	4	1	サンパウロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	7.7	0.8	0.5	12	40	2	ロサリオ	15.2	-2.1	-2.3	105	115	4
ペキン	14.1	1.4	1.2	10	53	3	ホノルル	28.1	1.6	2.7	40	74	3
シヤンハイ	—	—	—	—	—	—	タヒチ	—	—	—	—	—	—
バンコク	27.6	-0.6	-1.5	156	65	—	ダーウィン	29.3	0.2	0.3	35	47	3
マニラ	—	—	—	—	—	—	キャンベラ	13.0	0.2	0.2	47	72	3

## 10月の世界の天候

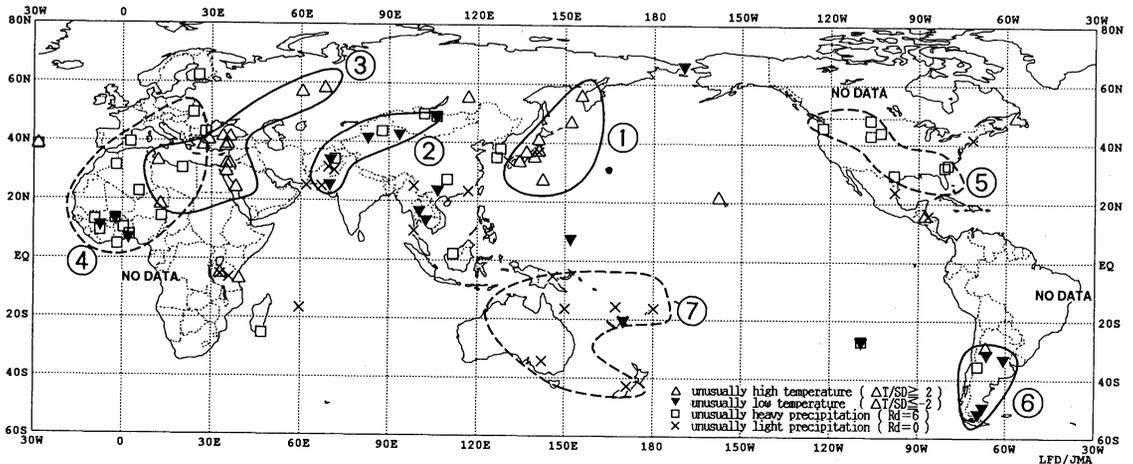
10月の北半球 500 hPa 高度天気図では、極渦の中心が東半球側によって強く、カナダ北部からグリーンランドにかけてと、ユーラシア大陸上にまとまった正偏差域が存在した。偏西風の強風軸は日本付近から日付変更線にかけて北偏した。

- ①日本からカムチャッカ半島にかけての高温少雨  
日本からカムチャッカ半島にかけて平年を 2°C 以上上回る場所が多く、高温少雨となった。
- ②モンゴルからパキスタンにかけての低温多雨  
モンゴル、中国西部、パキスタン北部などでは低温多雨となった。
- ③ロシアからアフリカ北東部にかけての高温  
ロシア西部からアフリカ北東部にかけて高温となった。ロシア西部は9月に続く高温少雨で、干ばつとなり、冬小麦の植え付けに影響が出た。
- ④ヨーロッパ南部からアフリカ西部にかけての多雨  
ヨーロッパ中部・北部では低温傾向で多雨となった所が多く、ブルガリアのバルナでは月降水量 130 mm (237%) を記録した。ヨーロッパ南部からアフリカ西部にかけて多雨で、平年では乾期に入るサヘル域も前月に続いて多雨だった。ニジュール南部のギグ

ミでは月降水量 49 mm (7000%) を記録した。

- ⑤アメリカ合衆国の多雨  
アメリカ合衆国では北東部を除いて全体に多雨となった。テキサス州では洪水による死者15人が伝えられた。
  - ⑥アルゼンチンの低温  
アルゼンチン北部からチリにかけては高温多雨傾向となった。アルゼンチン南部では低温少雨となり、リオガヤゴスでは月平均気温 5.4°C (-3.1°C) を記録した。
  - ⑦オーストラリアからメラネシアにかけての少雨  
オーストラリアでは高温傾向、メラネシアやニュージーランドでは低温傾向となった。オーストラリアでは引き続き少雨で農牧業への影響が報じられた。メラネシアも少雨となった所が多かった。
- その他  
インド南部などでは多雨傾向の所が多く、サイクロンによる被害も発生した。また、アフリカ南東部のタンザニアでは低温少雨となった。

(気象庁予報部長期予報課 神野正樹)



1994年10月の世界の異常天候分布図

△：高温 ▼：低温

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

□：多雨 ×：少雨

1994年10月の気候表の説明。平均値は、1961~1990年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa 高度場の平均値は1961~1990年の30年平均値。

## 1994年夏季モンスーン期の降水の特徴

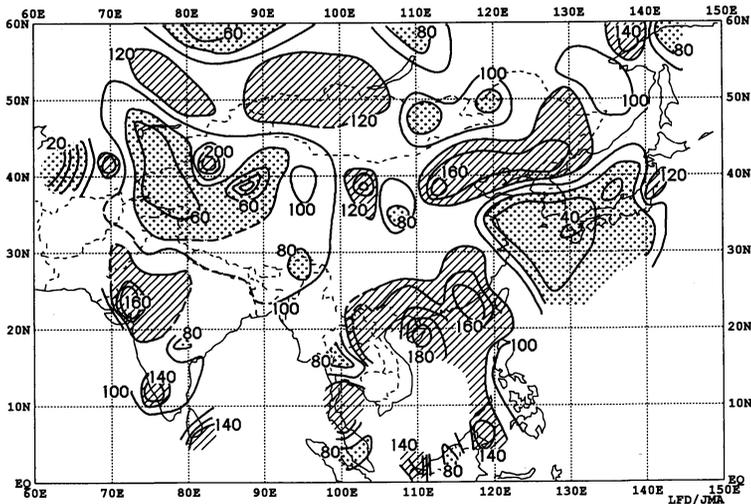
今夏のインドのモンスーンは、6月初めにインド南西部で始まり、ほぼ平年並に進行した。7、8月のモンスーン活動はかなり活発で、インド及びパキスタンでは大雨による洪水が相次いで報じられた。ニューデリーの7月の月降水量は482ミリ(平年比214%)、ボンベイでは954ミリ(平年比136%)と、平年を上回ったところが多かった。インド西部及びパキスタンでは9月に入っても平年より降水量の多い状態が続いたが、そのほかの地域は平年より少ない状態に転じた。6月から9月の期間を通してみるとインドのモンスーンによる降水量は、平年よりやや多めであった。

6月から9月までのそのほかのアジア域の降水の様子を地域別に見てみると、中国東部から韓国、西日本にかけての地域は、期間を通して顕著な少雨状態が続

いたが、その北側にあたる中国東北部では多雨傾向となった。中国南部では、前線や台風の影響を受けて期間を通して多雨の状態が続き、洪水による大きな被害が伝えられた。フィリピンも台風の影響を受けたが、降水量としてはほぼ平年並であった。ベトナムは8、9月に多雨となり洪水の被害が報じられている。一方、中国西部からカザフスタンにかけての地域では広い範囲で少雨となった。

6月から9月までの間に発生した台風の数には26個で、この期間の発生数としては1951年以来最も多い。日本に上陸した台風は7月の第7号と8月の第11号、9月の第26号であった。

(気象庁予報部長期予報課 小林ちあき)



1994年夏季モンスーン期の降水量平年比分布図。

1994年6月から9月にかけてのアジア・モンスーン域を中心とする降水量の平年比(%)である。等値線の間隔は20%。また点彩域は80%以下、斜線域は120%以上の領域を示す。